慶應義塾 医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160―8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　武田　純三
毎月　１回20日発行

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●外来診療時間＝午前8時40分～午後12時 午後1時～午後4時（特殊外来）
●電話＝03（3353）1211（大代表）

第110回医師国家試験

多様な範囲からの出題で 100％合格は叶わず

厚生労働省は3月18日、平成28年2月6日から8日の3日間にわたり実施された第110回医師国家試験の合格発表を行った。合格率は91・5％と、前年の91・2％を上回り過去最高となった。

合格基準は、一般問題を1問1点、臨床実地問題を1問3点としたとき、必修問題については200点中160点以上、必修問題以外の一般問題及び臨床実地問題はそれぞれ199点中125点以上、594点中388点以上、禁忌肢選択数は3問以下の者を合格とした。問題が難化したことに伴い、合格基準は前年と比較してかなり低下したといえる。

全体の受験者数は9434人、うち合格者数は8630人で、男女別の合格率は男性が90・7％、女性が93・2％という結果だった。

今回の医師国家試験も臨床的視点からの出題が多く、重箱の隅をつつく知識を問う問題は少なくなっている。臨床実習を真面目にこなすことが重要だという問題作成者からのメッセージであろう。必然的に受験者の思考力を試す問題が増え、一見平易でも回答がばらける問題が多い。覚える知識が膨大になっていくにつれ、より医学的思考回路が重視されているのは良い傾向かもしれない。

出題範囲では外科領域の問題や高齢化に伴い老年病に関する出題が増えたものの、全体のバランスは前年と比較し総じて変わらなかった。また、日常とリンクした医学知識を問う問題も多かった。大手予備校の講評では「例年並みの難易度」と評されているが、多様な出題範囲を考えると実際に受けた受験者は難化した印象を持ったに違いない。

本塾医学部は新卒108人中105人（97・2％）が合格し、既卒も含めると112人中105人（93・8％）が合格した。本塾が高い合格率を維持し続ける背景には、国試対策委員会が中心となって、学生同士が積極的に教えあい、全体のレベルを底上げしていく体制がある。前年の国家試験の傾向を踏まえた説明会を行い、積極的な模試受験の推奨など計画的な学習を促している。

重圧をはねのけ難関を通過した今年の95回生に敬意を表したい。

（5年　水上耀介）

第110回医師国家試験　新卒合格率順位

順位	大学名	合格率（%）	合格者数／受験者数
1	順天堂大学	100	108/108
1	東京慈恵会医科大学	100	107/107
1	近畿大学	100	85/85
1	和歌山県立医科大学	100	105/105
5	東京医科歯科大学	99.2	126/127
6	自治医科大学	99.1	113/114
7	日本大学	99.1	110/111
8	福島県立医科大学	99.0	100/101
9	佐賀大学	98.9	91/92
10	横浜市立大学	98.9	86/87
11	秋田大学	98.3	118/120
12	東北大学	98.3	117/119
13	東邦大学	98.1	103/105
14	慶應義塾大学	97.2	105/108
14	名古屋市立大学	97.2	70/72

短期集中連載　第3回

慶應医学部100周年に向けた 4つのタスクフォースの取り組み

ポストCOI―Tゲノム医療推進タスクフォース

坂口光洋記念講座（システム医学）　洪　実（65回）

最近、メディアを通じてゲノム医療や個別化医療、Precision Medicineという言葉が、医学医療関係者だけで無く一般の人々の関心を集めつつある。これは、診察・検査データ・画像データなど従来型の医療情報に加え、マルチオミックス情報といわれるゲノム、エピゲノム、トランスクリプトーム、メタボローム などの個人に即した高精度且つ大容量測定データを活用することで、患者さんそれぞれに最適の治療を提供することを目指している。

迅速安価に全ゲノム情報を読み取れる次世代シークエンサーをはじめとして高精度な検査技術は整備されつつあるため、喫緊の課題は、個人の医療情報を収集・統合し、医療の現場で共有できるITシステム作りである。また、より精度の高い診断・治療のためには、日常の生活、運動、食事、栄養などといった、従来は医療情報の外であった健康情報の収集・解析も重要となる。さらに、多くの患者、健常人をコホートとしてビッグ・データ解析を行っていくことで、データと治療方針の対応関係を発見していく必要がある。

これらは、昨年終了した文科省のセンターオブイノベーション・トライアルで慶應義塾大学拠点が目指していた課題でもあったが、岡野医学部長のご提案で教授会タスクフォースの一つとして、「ポストCOI―Tゲノム医療推進タスクフォース」を組織し、さらに検討を続けることとなった。本タスクフォースの目的は信濃町キャンパスでの基礎と臨床のIT、特にコンピューターを活用した様々な活動を統合することも含まれ、現在、2ヶ月に1度教授会の後に15人ほどのメンバーからなる委員が議論を重ねている。ここでは、その活動の一部をご紹介させていただく。

一つ目は、慶應義塾大学病院、関連病院、三四会との連携による医療情報、医療ITの推進とそのための仕組み作りである。特に、多施設での電子カルテ情報の一元化と自在な検索を可能とするSS-MIX2ビューア（センターオブイノベーション・トライアルの成果）の実証研究が始まっている。さらに、2015年末には、武林亨教授、宮田裕章教授が中心となり、神奈川県、川崎市、横浜市、企業群とともにJSTリサーチコンプレックス推進プログラム（フィージビリティスタディ拠点）が採択され、健康情報収集・利活用に取り組んでいる。

二つ目は、検体管理・バイオバンクシステムの構築である。ゲノム医療を進める上で、鍵となるのが解析対象である臨床検体の管理、バンキングとその健康・医療データベースへの統合である。慶應義塾大学は、電子カルテとリンクした検体管理ITシステムを、センターオブイノベーション・トライアルの成果として構築しつつある。これを軸として、医学部内での検体管理・バイオバンク事業統合について、タスクフォース内で作業部会（金井弥栄教授、小崎健次郎教授、増井徹教授）が立ちあがっている。

三つ目は、基礎・臨床研究を推進するためのバイオインフォマティクス基盤整備である。データ解析エキスパートと協力して、毎月の情報共有の場として、慶應バイオインフォマティクスコミュニティー（BIC）を開催している。また、ハンズオントレーニングを通じて、信濃町キャンパスでのインフォマティクス解析リテラシーを高める試みが始まっている。

今後は、タスクフォースで議論を重ねてきたことを、教授会を通じて、皆様にさらにご議論いただくことになると考える。また、様々な事業を実施していくに当たっては、医学部・病院、関連病院、三四会員の皆様のご理解、ご協力が必要となります。よろしくお願い申し上げます。

「平成27年度謝恩会」開催

本年度の謝恩会が3月23日、帝国ホテル富士の間において執り行われた。今年度の卒業生である95回生とその保護者、6年間でお世話になった多くの先生方が参列し、会は終始和やかな雰囲気で進行した。

謝恩会は19時に開会し、来賓の挨拶、卒業生紹介、卒業記念品授与、寄贈品贈呈、謝恩会委員挨拶、若き血斉唱と続いた。岡野栄之医学部長は卒業する95回生に「とんでもなく問題の多い学年で自分の在籍していた学年と似ている。大いに期待している」というメッセージを送り会場に大きな笑いが起きた。

式のほとんどの時間が生徒、保護者、先生方の歓談であり、普段ポリクリではなかなか話せなかったことをいらっしゃった先生方に相談する卒業生の姿が多く目立った。自分の将来興味のある科の先生のお話を積極的に聞きに行き、これから始まる長い医者人生の参考にしようとしているような内容であった。たった2週間ポリクリで回っただけで生徒と過ごす時間もお仕事の中の限られた時間だけだったというのに、一人一人の生徒の名前と顔を覚えている先生も中にはいらっしゃり、卒業生は感動していた。

卒業生の自己紹介では今後の抱負を語る者、6年間の思い出を話す者、親や先生方への感謝を述べる者など様々見受けられたが、皆一様に壇上で希望に満ち溢れた輝いた顔をしていた。

95回生が卒業後も更なる飛躍を遂げ社会の先導者となることを願うとともに、我々在校生も義塾で学ぶ者としての自覚をより一層強く持ち、世界の医学の進歩に寄与できるように研鑽を積む必要があると強く感じた。

（5年　馬場徹人）

晴れやかな表情の95回生たち

平成27年度 卒業式

95回生108名が社会へと羽ばたく

平成27年度卒業式が3月23日、日吉記念館で行われた。日吉記念館は卒業生とその家族でほとんど埋め尽くされ、厳粛に行われた。

開式の辞より始まった式典では、まず長谷山彰常任理事による学事報告がなされ、各学部の卒業生数および表彰者数が読み上げられた。卒業生数は全学部で6436名、医学部はそのうち最も少ない108名であった。次に各学部の代表者への学位記授与が行われ、医学部からは湯浅絵理佳君が受領代表となった。続いての各種表彰では、大学表彰規程による表彰、すなわち医学部首席として大藤嘉子君が表彰を受けた。次に小泉体育努力賞として、医学部から柔道部1名、端艇部29名、競走部2名、バスケットボール部15名、空手部9名、アメリカンフットボール部11名が表彰された。最後に小泉体育奨励賞や塾長賞の表彰が行われた。

各種表彰の終了後、清家篤塾長が式辞を述べた。塾長は、福澤先生が"society"を『人間交際（じんかんこうさい）』と訳すほど、人との交わりを大事にしていたことに絡め、「互いに学び、互いに高めあう術を身に着けた卒業生には、これからも半学半教の精神をもってこれからの人生を切り開いていってほしい。そのためにも自らが他に教えることのできる何かを蓄え、そして常にどんな人とも対等に接して謙虚に学ぶことを忘れずにいてほしい」とエールを送った。

式の結びには、会場にいる塾職員と卒業生など、慶應社中による塾歌斉唱が行われた。同会場では引き続いて2016年三田会結成式が行われ、無事閉式となった。

他の学部の卒業生同様に社会へ漕ぎ出す慶應医学部95回生の卒業を祝福し、今後の活躍に大いに期待したい。

（5年　馬場徹人）

日吉記念館での卒業式

卒業生に贈る言葉

―原点と挑戦―

常任理事　戸山　芳昭（54回）

95回生の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。慶大医学部も今年で創立99年を迎え、いよいよ100年まで残すところ1年となりました。この創立100年記念事業の中核を成すものが新病院棟建設であり、慶應医学が目指す〝世界に冠たる総合医学府〟の構築に向けてソフト・ハード両面での改革を進めているところですが、本事業の一環として記念式典や記念シンポジウムの挙行、医学部100年記念誌の発刊なども予定されています。皆さんが2年間の初期臨床研修に加えて、専門医取得のための後期研修を終える頃には、慶應医学は新たな装いの下、次の百年に向けて動き出しているはずです。

さて、皆さんはこの4月より医師としての第一歩をスタートするわけですが、ほとんどの卒業生は初期臨床研修に進むことと思います。その2年間で、それぞれの研修施設において実際の医療を学び、より多くの経験を積み、一回りも二回りも大きくなって慶應に戻ってきて下さい。その日を楽しみに待っております。

ところで、私の好きな言葉の一つに「原点と挑戦」があります。医師は病気には厳しく、患者さんには常に優しく、病気を治すとともに患者さんの話によく耳を傾け、ヒトを診る医師、病人を治す医師であることが原点であり、基本であります。その上で、患者さんから多くのことを学び取って下さい。患者さんからは、その疾患に関して数多くのシグナルが医療側に送られているはずです。私達が気付かないだけで、そこには新たな疾患群の発見や病態解明に繋がる何かが隠れていることもあります。

ご存じの方も多いかと思いますが、〝松茸は千人またぐ〟という諺があります。つまり松茸取りの名人は、必ず松茸を見つけ出すという強い意志、目的を持って山に入り、ほんの少しの土の膨らみや落ちている木の葉の変化を読み取って、その下に松茸が隠れているのを見つけ出します。ところが、一般の人は大きな目的も無く歩き、そこに松茸、医学にとっての宝物、新発見があることに気付かず、跨いで通りすぎてしまうということです。医師も松茸取りの名人のように、患者さんが持っている、ほんの少しの症状や所見を見逃さず、注視し、患者さんから多くのことを学び、教えてもらって下さい。その姿勢が大切です。

その上で、臨床からの疑問を基礎研究で明らかにして下さい。難病と言われている疾患群に挑戦下さい。加齢現象にも「歳のせい」と言わずに科学力にて挑戦下さい。再生医療も挑戦するに値する大きな課題です。〝慶應医学―次の百年に向けて〟、95回生の皆さん！その中心となって活躍出来るよう、しっかり前を向き挑戦し続けて下さい。

社会に貢献を

三四会会長　武田　純三（52回）

95回生の諸君　卒業おめでとうございます。6年間の学生生活を振返って、楽しく、満足のいく学生生活を過ごすことができたでしょうか。不安と共に希望で胸をいっぱいに膨らませていた入学式のことを思い出してください。その時に志した医師が目前のものとなり、白衣式の時に誓った言葉を実行する時がやってきました。

現在皆さんが進んでいこうとしている医療の世界では、大きな制度改革の波が押しよせています。平成24年に社会保障制度改革国民会議で決められた、地域での医療の在り方の方針に基づいて平成28年度の診療報酬改定が行われ、日本の医療が動きだそうとしています。また、日本専門医機構による第三者による専門医制度も、平成29年度より始まろうとしています。さらに昨年10月に医療事故調査制度が開始され、医師法21条に関する検討も始まっています。このように皆さんが進んでいく医学の道は、急速に変革をきたし始めています。しかし、このような変化に右往左往することなく、6年間学んできた福澤・北里両先生の教えに基づいて、勉学に励んでいただきたいと思います。

医学部同窓会である三四会の規約には、『医学部と密接な連携を保ち、会員相互の親睦、医学医術の研鑽に努め、福澤、北里両先生建学の訓えを体して慶應医学の隆盛発展に寄与することを目的とする』とあります。すなわち三四会は、福澤、北里先生の教えに基づいて、慶應医学の発展に寄与することが目的の一つです。北里先生は、自分を育ててくれた人と社会に感謝し社会に貢献することで、恩に報いること「報恩」を説いておられますし、福澤先生が作られた慶應義塾の目的には、『全社会の先導者たらんことを欲するものなり』とあります。福澤、北里両先生は、社会への働きかけや貢献を、塾員・三四会員に望んでおられます。

卒業により皆さんは、それぞれが自ら選んだ道を進んでいくことになります。しかし、一緒に信濃町で学んだ6年間は、全員が共有できる経験です。別々の道に進んでも、医師として医学を学んだ出発点は信濃町にあります。年を重ねていくつになっても、医師としての原点はここにあるのです。

一生医師であり続ける皆さんは、社会に貢献し続けることが課せられています。三四会はこの命題を実行するためのサポート役として貢献できるものと考えております。三四会は、一生医師であり続ける皆さんと共に歩み続け、応援し続けます。

新病院棟 Ⅱ期棟エリア解体

＝３月の進捗状況＝

本年２月撮影の航空写真。左上がJR信濃町駅

２号棟から見た解体現場。
後ろに総合医科学研究棟と東校舎が見える

昨年秋に竣工した1号館Ⅰ期棟は本年1月に地下1階の放射線治療部門が稼働を開始し、全館フルオープンとなりました。

これと並行して2期棟建設エリアである病院北側敷地の既存棟解体工事が進んでいます。今回解体されているのは中央棟北側、7号棟、CT・MR棟、臨床講堂、放射線治療棟などですが、3月上旬の時点で一部を除き建屋上物の解体がほぼ完了しました。現在は2期棟を建設するエリアがほぼさら地となって姿を現しています。実際の工事現場に足を踏み入れると、改めて建設規模の大きさを実感することができます。

新病院1号館Ⅱ期棟が4月に着工

Ⅱ期棟建設工事はいよいよこの4月に着工され、2年後の2018年春に竣工予定です。

完成する1号館は、建築面積8800平米、延べ床面積7万4600平米で地上11階地下2階の免震構造を有する建物です。Ⅰ期棟とⅡ期棟は完全に一体化する建物となり、現在の慶應病院の外来や病棟、手術室、放射線部門、検査部門などの多くを収容する事になります。

（新病院棟開設準備室長　渡辺真純　64回）

三四会奨励賞の推薦について

Young Investigator Award、Keio University School of Medicine Alumni Association（Sanshikai）

目　的　若手の三四会会員の研究を奨励し、実学としての慶應医学の発展を図る。

対　象　次の各分野ですぐれた業績をあげた三四会正会員（本塾関連病院のみではなく、研究施設他大学、地域等で業績を上げている三四会員も含む）
1．対象となる分野
　イ、臨床医学　　ロ、基礎医学
2．満40歳以下

推薦方法
1．推薦者は、三四会役員、三四会評議員、慶應義塾大学医学部教授、慶應義塾大学関連病院会会員および他大学教授（三四会員）とします。
2．推薦者は、候補者の承諾を得た上で、所定の書式（三四会奨励賞推薦状）により候補者を推薦して下さい。
3．推薦締切りは平成28年４月22日（金）必着、三四会事務局宛とします。
4．提出部数は、推薦状、被推薦者略歴、論文別刷（学術集会発表の場合はそれを証明するコピーと800字程度の抄録）、オリジナル１部とコピー10セットが必要です。
5．対象となる研究が共著論文の場合は共著者の承諾書（オリジナル１部とコピー10部）が必要となります。
※推薦状、略歴、論文、共著者の承諾書を順に組んで１部とし、コピーも同じ体裁に整えてください。
※推薦状のダウンロード、必要書類等は下記URLをご覧下さい。
URL：http://www.sanshikai.jp/award/shourei/index.html

三四会社会功労賞の推薦について

目　的　地域社会、社会貢献を通じて顕著な功績により三四会の名誉を高めた三四会員を表彰し実学としての慶應医学の発展を図る。

対　象　1、表彰目的に沿った優れた業績をあげた三四会正会員（本塾関連病院のみではなく、研究施設、他大学、地域で業績をあげている三四会員も含む）
2、年齢は問わない。

推薦方法
1、推薦者は、三四会役員、三四会評議員、慶應義塾大学医学部教授、慶應義塾大学関連病院会会員および他大学教授（三四会員）とします。
2、推薦者は、候補者の承諾を得た上で、所定の書式（三四会社会功労賞推薦状）により候補者を推薦してください。
3、締め切りは、平成28年４月22日（金）必着、三四会事務局宛とします。
4、提出部数は、推薦状、被推薦者略歴、表彰目的に沿った業績目録、客観的に評価しうる資料等、オリジナル１部とコピー10セットが必要です。

※推薦書のダウンロード、必要書類等は下記URLをご覧下さい。
URL：http://www.sanshikai.jp/award/kourousyo/index.html

鑑賞知来

あと数日で母が90歳の誕生日を迎える。今年は盛大にお祝いをしようと、子どもや孫たち、そして親戚も海外から集まってくる。とても賑やかな会になりそうで、楽しみにしている。

今まで自立してひとり神戸で生活していた母であったが、ちょうど2年前に癌の手術を受けた。術後の経過は良かったものの、ひとり住まいは心配だったので、ちょうどタイミング良く葉山に家を建てた自分が、母の面倒を見ることになった。こうしてバツイチ独身の自分と老母、愛犬ジュとの共同生活が始まった。引っ越してから約1年半が経った今、すっかり葉山での生活に慣れ、週2日のデイサービスを通じて新しい友人がたくさんできたようだ。体調が回復しただけでなく気持ちも明るく積極的になり、家の近くのジムにも通いポールウォークも始めた。

私が母と暮らしていることを知る人はよく「親孝行ですね」と言ってくださるが、親孝行しているという気負いは全くない。母との生活は楽しく、学びが多く、そして実際とても助かっている。手足が非力になっている点など、家事では多少の制限や不自由さはあるようだが、上手く工夫をしながら、ほぼ自立して自己管理ができている。きっと息子に迷惑や負担をかけてはいけないという気持ちが、自立心と自尊心、日々の生活レベルの継続につながっているように感じる。小さい頃に食べた〝おふくろの味〟を今でも作ってもらえ、味わうことができるのは、本当に幸せである。

QOLの高い超高齢者を〝サクセスフル・エイジング〟というらしいが、母のライフスタイルと思考は、幸せな老後のヒントがいっぱいある。子は親から人生の始まり方だけではなく、終わり方も学ぶのだと最近になって気づいた。自分も人生の「思秋期」にさしかかった時期になるが、「終活」のすばらしいモデルである母との一日一日を感謝し大切にしたい。

（㈱メディ・ウェブ代表取締役会長／医療法人健究社理事長　楊　浩勇　68回）